

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

蛭ヶ岳・桧洞丸－丹沢の主稜を行く－

ゴールデンウィーク後半の5月上旬、丹沢に出かけた。大倉尾根から塔ノ岳を越え丹沢山に泊り、蛭ヶ岳、桧洞丸と丹沢主稜を縦走して、西丹沢自然教室に下山する計画である。



蛭ヶ岳

渋沢駅からのバスを終点大倉で下り、9時半出発で大倉尾根を登る。昔なじみのバカ尾根に大汗をかい、13時10分、塔ノ岳(1491m)に到着。山頂広場は銀座のホコ天並みの賑わいである。春霞で眺望は今一だが、オシャベリに興じながらの昼食休憩となった。

13時50分、重い腰を上げ丹沢山に向かう。ブナ林の中をなだらかにうねる尾根道の散歩が心地良い。15時丹沢山(1567m)に到着し、山頂小屋・みやま山荘に今夜一夜の宿をとった。

夕食までの時間、酒盛りの仲間に加わったが、私が最年長と分かり、奉られてすっかり飲まされてしまった。イイ年をしてつい調子に乗る悪い癖。



丹沢山頂夕景

翌朝、好天に恵まれ6時半出発。ツルベ落としの急坂を下り、ブナ林の中を不動ノ峰、棚沢ノ頭、鬼ヶ岩ノ頭な

どの小峰や岩場のキレットを越え、最後に登り返して7時50分、丹沢山塊の最高峰・蛭ヶ岳(1673m)に到着。富士山と南アルプスの眺望が素晴らしい。振り返ると昨日辿って来た丹沢山、塔ノ岳が大きく見えた。



丹沢山からの丹沢主脈

ここから丹沢主稜線を西に辿る。最初から物凄い下り。登り返してミカゲ沢ノ頭、臼ヶ岳。次いでブナ林の中をどんどん下りた最低鞍部の神ノ川乗越が標高1250m。蛭ヶ岳から何と400mの落差である。次いで2つ3つピークを越え、崩壊の激しい金山谷乗越を慎重に通過し、最後の登りに完全にアゴを出してようやく10時45分、桧洞丸(1600m)山頂に到着した。

すっかりバテて、またも大休止。ブナ林に囲まれ眺望はないが、山頂付近のバイケイソウの大群生が見事である。



金山谷乗越からの桧洞丸

下りは、ゴーラ沢経由で、西丹沢自然教室のバス停到着が13時45分。帰路、中川温泉で途中下車し、定番の風呂とビールで一日を締めくくった。